

令和3年度 第1回那須塩原市まち・ひと・しごと創生推進懇談会 会議要旨

開催日時 令和3(2021)年10月7日(木) 午後3時00分から午後4時33分まで

開催場所 オンライン開催(会議室出席者・事務局会場 那須塩原市役所303会議室)

出席委員 10名

欠席委員 1名

那須塩原市 企画部長

事務局 那須塩原市 企画部企画政策課 4名

1 開 会

2 あいさつ(山島会長)

皆様、こんにちは。

前回の会議から今回の会議までの間、コロナでみなさん大変だったと思います。

各事業の実績資料を見てもコロナの影響でこの2年間様々なことができなかつたことが分かります。これは、世界中そういう状況ですから仕方ありませんが、今後、アフターコロナ、ウィズコロナになっていくことを踏まえて、まち・ひと・しごと創生の観点でも非常に重要な検討項目がたくさんあるかと思ひます。

昨年と今年は進められなかつた部分など、これから一生懸命進めていかなければならない事業もたくさんあるため、皆さん熱心にご議論いただければと思ひます。

3 議事

(1) まち・ひと・しごと創生基本方針2021について

(資料2を用い、事務局より説明)

(2) 令和2年 転入転出の状況について

(資料3を用い、事務局より説明)

(3) KPIの進捗状況及び地方創生関係交付金事業について

(資料4を用い、事務局より説明)

(4) 分散型地域づくりの考え方について

(資料5を用い、事務局より説明)

(5) 次期総合戦略の策定について

(資料6を用い、事務局より説明)

(次ページへ続く)

《委員からの主な意見》

・情報発信とファンクラブ制度について

- 地方へ関心を持つということは何かひとつきっかけが必要であると考え。市は、ホームページなどで様々な情報発信を画一的に行っていると思うが、例えばファンクラブ制度のように市に関する情報を個であるファンに向けてプッシュ型で発信していく仕掛けを行ってはいかがか。
- 首都圏などに向けても、なすしおばらファンクラブのPRなどを検討した方がよいのではないか。
- (ファンクラブに向けた情報発信について) 観光局での活用を検討するなど、観光分野との連携策を考えるべきではないか。
- 魅力を発信していくにあたり、単に住みやすい地域だということだけでなく、交通の便が良いとか温泉があるとか学校の教育が充実しているとか、複合的な魅力を高めていく努力を今後も続けていくことが重要ではないか。

・現状を踏まえた今後の政策を推進するうえでの視点について

- 那須塩原市の特徴として、東京圏からの転入数が県全体の傾向から見ても多いという印象を受ける。東京圏からの転入者が多いというのは県内自治体の中でも1つ大きな特徴ではないか。
- 転入超過であることは良いことだが、コロナが収束したら15～19歳は再度首都圏に転出していく可能性がある。このような視点を踏まえ、どういう政策に力を入れるかを考える必要がある。
- 転入者を増やすためにどういうまちづくりを行うのかは大切だと思うが、もはや転入超過が困難である社会情勢下で、転出超過であることを前提とした政策立案の視点が必要ではないか。
- 人口は減少しているが、60歳以上の転入は増えている。どのような年齢層がどのように減っていくのかということも、コロナが要因なのかどうかも含めて分析が必要である。
- このコロナ禍の状況が特殊なものなのか、そうではないのかという前提を整理し、今後の政策やシナリオを考える視点が重要ではないか。
- 近年、市内で建売住宅の販売数が増えており、住宅・分譲地などを求めている若い家族層の転入が増えていると考えられる。具体的にどういった層が住宅・分譲地を求めているのかといった需要を分析していくと、今後の施策の方向性が見えてくるのではないか。
- 色々なイベントや行事を大人目線でしか企画していない印象であるので、高校生をはじめ子どもたちの意見も聞いて、それを企画に盛り込むことなども考えてはどうか。

・移住定住の取組について

- 移住者にヒアリングを行って、移住の要因などをデータとして収集・分析することで、新しい取組などが考えられるのではないか。
- 移住促進センターに相談したことをきっかけとして移住をした人が知り合いにいますが、親身に相談に乗ってくれる体制が非常に重要だと考える。そのような体制があることも市に人が集まる要因になるかと思う。

・ART369 プロジェクトに関して

- N' s Yard、大黒屋など民間と連携した取組、みるるやくるといった周辺の拠点を活用した取組ができるの良いのではないかと。
- アート分野では、那須地域全体で様々なものがあり、いかにこれらを継続して定着化させていくかが重要ではないかと。
- 例えば、子どもたちの発表の場を設けるなど、市内の小中学生の芸術性を育てることにつながる企画が実施できると良いのではないかと。公共の場で、色々な人に作品を見てもらうということが子どもたちにとっての刺激や励みにもなるので、そういう場を作るべきではないかと。
- アートスペースの入場者数を増やす更なる取組が必要ではないかと。入場者にプロジェクトや那須塩原市の良いところを知って理解してもらえば、関係人口の創出に寄与するものと感じる。

4 その他

(特になし)

5 閉 会 (午後4時33分)